



道路等の高さ制限に注意

高さ制限バー、架空線に接触する事故が発生しています。標識の見落としや、荷台の状態を確認しないままの走行などが原因となっており、車両を運転する際は車高にも気をつけるように心がけて下さい。

事例① 高架の高さ制限バーに接触

桁下損傷状況



<事故概要>

橋梁点検車（リース車）を運転中、高架下を通過する際に高さ制限バーに接触し、そのまま進入。高架下面を擦りながら進行し出口側の高さ制限バーに接触し停止。

<事故の影響>

J R 運休 5 本、23 本が最大 20 分遅れ
約 23, 500 人に影響。

<事故原因>

車高を意識していなかった。

<事故防止対策案>

1. 運転している車両の高さを把握する。
2. 通行の際は十分に徐行する。
3. 高さ制限のある箇所は標識等に注意を払う。
4. 運行経路を立案する。



事故状況写真

事例② 国道脇の架空線を切断

<事故概要>

トンネル掘削ずりの運搬作業中、ダンプした荷台を十分戻さない状態のままダンプトラックが国道に出てきたため、国道脇の架空線と接触し回線を切断した。

<事故の影響>

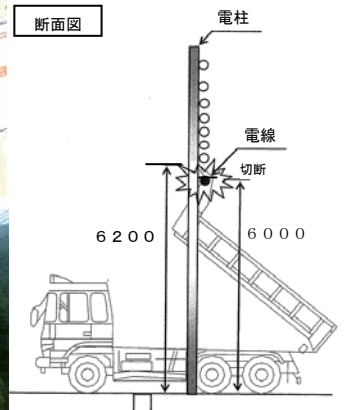
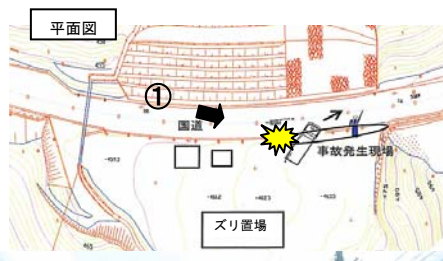
県のダムが一日遠隔操作等不可能になった。

<事故原因>

ダンプトラックの荷台の状態の確認をしなかった。

<事故防止対策案>

- 荷台の状態を確認してから道路へ出る。
- 普段から荷台の確認を徹底する。
- 工事現場から公道に出るときは、交通誘導員の指示に従い、荷台の確認を受ける。



① 現場状況写真



不注意から大事故につながる可能性があります

通行には細心の注意を心がけて下さい。

(裏面につづく)

熱中症には十分注意しましょう！

屋外作業が多い建設業の現場では熱中症が生じやすくなります。命に関わることもありますので、適切な予防策によって発症を防ぐ、応急処置によって重症化を防ぐことが重要です。また、発症には個人差がありますので、日頃の健康管理にも十分気をつけて下さい。

建設業における熱中症（死亡災害について）

厚生労働省による調査では、熱中症による死亡者は過去10年間で193人に上っています。

年 (平成)	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	計
人	20	18	24	22	17	17	23	17	18	17	193

なお、業種別の発生状況（平成18年～20年分）では建設業が全体の約6割を占めています。

業種	建設業	運送業	警備業	製造業	林業	その他	計（人）
平成18年	14	0	0	1	1	1	17
平成19年	10	1	2	2	0	3	18
平成20年	9	0	0	5	0	3	17
計（人）	33	1	2	8	1	7	52

件数自体は減少傾向ではありますが、建設業の占める割合は依然高い状況となっています。

過去3年間の発生状況を見ると・・・

○作業開始からの日数別では**全体の8割が1週間以内**に発生しています。

○月別では、**7月及び8月に全体の約8割**が発生しています。

○時間帯別では、**午後2時から午後4時台**の間に多発し、**全体の約6割**を占めています。

※近畿地方整備局管内では、年間4件程度の熱中症の事故速報を受けていますが、適切な措置を受けたことで、重篤な災害には至っておりません。

以下の症状には要注意！！

- ・ 高い体温
- ・ 赤い・熱い・乾いた皮膚
(全く汗をかかない、触るととても熱い)
- ・ ズキンズキンとする頭痛
- ・ めまい、吐き気
- ・ 意識の障害（応答が異常、呼びかけに反応がない）



熱中症になってしまったときは—

- ・ 涼しい場所へ避難。
- ・ スポーツドリンクなどで水分を補う。
- ・ 氷嚢・濡れタオルなどで体を冷やす
- ・ 必ず病院に行く。



太い血管がある脇の下、首、足の付け根、股の間を冷やす



熱中症を防ぐには—

- こまめな水分補給
 - ・ のどの渇きを感じてからでは遅いこともあり、定期的に摂取するのがよい。
 - ・ スポーツドリンク等で水分と塩分を補給するのがよい。
- 透湿性・通気性の高い衣服の着用
 - ・ 汗の蒸発が不十分だと、体温を下げるために発汗量が増えて脱水状態になり易い。
- 組織として熱中症対策に取り組む
 - ・ 休憩場所の確保、定期的な休憩時間の確保。ドリンク類、冷やしタオル等を常備しておく。
 - ・ 高温多湿作業中は巡視を行い、作業員に声をかけ健康状態を確認し、兆候が疑われた場合は速やかに措置を講ずる。
 - ・ お互いに注意・配慮することで初期段階での処置が可能、重症化を未然に防げる。特に**新規入場4日以内**の人は熱への順化（熱に慣れ、当該環境に適応すること）の有無が、熱中症の発生リスクに大きく影響します。



熱中症に対する正しい知識を身に付け、対策を万全にしましょう